

見沼たんぼ・野草スケッチ 「ヒルガオ」

科名：ヒルガオ科 ヒルガオ属

花言葉：「絆」「優しい愛情」「情事」「友達のおしめ」など



16.8.8 第一調整池にて

P.S. この花は、暑い季節になると至るところで見ることが出来る。現代では朝顔は、園芸種として育てられ、ヒルガオは雑草扱いされている。

ヒルガオも万葉時代にはカオバナ（容花）と呼ばれ、カオバナと言うだけで、容姿端麗な女性を思い出させる程美しい花とされた。朝顔もれっきとしたヒルガオ科であるが、ヒルガオはヒルガオ属に対し、アサガオはサツマイモ属で多少異なっているのだという。



「ヒルガオ」

原産地：北海道から九州,海外では、朝鮮半島や中国にも分布している。

生育地：道端や日当たりのよい草地

茎：つる性の多年草で、地上部は毎年枯れる。春から蔓が伸び始め、夏にかけて道ばたなどに繁茂する。

葉：葉は長さ10～15センチくらいの三角形。

花期：5～9月

花・花色：花径5～6センチくらいの淡い紅色をした漏斗形。

種子：結実することはまれであるが、地下茎で増える。

特徴：近縁種に西洋昼顔（セイヨウヒルガオ）がある。

見分けるポイントは包の位置で昼顔（ヒルガオ）は萼の上に大きな包が2枚ある。西洋昼顔は花柄の中間に小さな包がある。

名前の由来：昼間に花が開くことからきているが、場所によっては朝のうちから開花し夕方にはしぼんでしまう一日花である。

記述は、みんなの花図鑑のサイトなどを参考にさせていただきました。